



The 70th Annual Meeting of Japan Radiological Society

第70回日本医学放射線学会総会

— 放射線診療の明日 ～多様性を推進力に～ —
Radiology Tomorrow : driven by diversity



2011年4月7日(木)～10日(日)

会場 パシフィコ横浜



第70回

日本医学放射線学会総会

尾辻 秀章 メディカルプラザ
薬師西の京 PETセンター長
が、学術発表をされますので
ご紹介いたします。

第70回日本医学放射線学会総会

— 放射線診療の明日 ～多様性を推進力に～ —

2011年4月7日(木)～4月10日(日)の4日間、パシフィコ横浜において、第70回日本医学放射線学会総会を開催いたします。
メインテーマは「放射線診療の明日-多様性を推進力に-」としました。放射線診断学、核医学、放射線治療(腫瘍)学を内包する放射線医学の最大の特徴はその多様性にあります。また放射線診療を維持・発展させるには、放射線科医、診療放射線技師、医学物理士、看護師など様々な職種のスタッフのチームワークが不可欠です。多様性の大切さを再認識することで、我々の明日が開けていくと考えています。

今回のプログラム編成では、特に一線病院に勤務されている中堅・若手の方々に配慮した「参加者に優しい大会」をめざしております。大会の根幹となる口演、電子ポスター、教育講演、研修医セミナー、機器展示はもちろんのこと、

様々な分野の最新の研究成果から、放射線科医として必要な情報を得る場として、特別講演、International session、シンポジウム、ワークショップを用意しております。

演題の応募方法、発表形式等はホームページで逐次公開致しますので、ご利用下さい。

来春、横浜で一人でも多くの方々とお会いできることを楽しみにしております。

第70回日本医学放射線学会総会会長 大友 邦
(東京大学大学院医学系研究科 生体物理医学専攻 放射線医学講座 教授)

大友 邦

Pulmonary 3D CT Angiographyを用いた 肺門部解剖の3次元解析法

メディカルプラザ薬師西の京 画診 尾辻秀章

奈良医大

放 三浦幸子、甲川佳代子、
兵藤公一、吉川公彦

目的：Pulmonary 3D CT Angiographyによる肺門部解剖の3次元解析法の提案。方法：64ch MD-CTを用いて、胸部Dynamic CT を施行し、気管支（Br）、肺動脈（PA）、肺静脈（PV）を分離抽出後、3D合成画像を作成し、肺門部の3次元構造を解析した。造影方法は、370mgI/mlの造影剤を36ml/6ml/secで注入し、注入開始5秒後に尾側からPA相を、引き続き7秒後に頭側からPV相を撮影した。最初に対象としたのは、右肺の上葉PAが1本、中葉PAが1本、上肺PVがCentral型で、かつ左肺の上区PAが2本、舌区PAが1本の葉間型、上肺PVがSemi-Central型の最も単純な肺門部の構造を持つ症例である。この症例の3次元画像による解析方法を提示し、その後、より複雑な分岐様式の解析に応用した。結果：最初の症例の右上葉では、A3bはB3bの内側に位置し、その尾側を走行するV2は中葉PAが分岐するレベルでは既に縦隔側に位置し、A3bの内側を下降してきたV1とV2が合流した。右中葉では、頭側からPA、Br、PVの順に位置した。左上区のPAはBrの縦隔側から分岐し、V3はB3の尾側に位置し、A3の内側を下降してきたV1+2とV3が縦隔側で合流した。左舌区では、内側にBr、外側にPAが走行し、その尾側に舌区のPVが位置した。これを基本形として踏まえれば、より複雑な分岐様式のBr、PA、PVの3次元構造を容易に解析出来た。結論：簡単な構造の症例で、肺門部のBr、PA、PVの解剖学的構造の基本形を理解することにより、より複雑な肺門部の3次元解析に応用しやすくなった。